

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196400055		
法人名	株式会社陽光		
事業所名	グループホームひだまりの家		
所在地	留萌郡小平町字小平町432-9		
自己評価作成日	平成24年6月27日	評価結果市町村受理日	平成24年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同事業主の有料老人ホームが隣接されており、入居者間の交流や職員間の情報交換などの協力体制が整備されている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0196400055&SCD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年7月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<地域とのつきあい>
併設の特定施設との合同夏祭りの開催で家族との交流促進や地域の夏祭り参加、町内の文化展出品準備や幼稚園の訪問受け入れなど地域との日常的交流に努めている。また、他事業所の実習生の受け入れ等で事業所の持つ機能を地域に還元する取り組みも実践している。

<戸外に出かける機会の確保>
本人のその日の希望に沿って、日用品の買い物や畑作業、幼稚園の運動会見物や夏祭り参加等戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、屋外でのレクの実施やパン屋さんの訪問販売の利用など金銭を使うことができる支援もしている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を事業所内に掲示し、理念の共有に努めている。 理念 ゆっくり 楽しく やさしく	「ゆっくり 楽しく やさしく」の事業所独自の理念を作りあげ、毎月の職員会議を通じてその理念を共有して実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント時、町内の施設等を利用し、参加、見学などの交流をしている。又、町内の文化展に作品の出品も検討中である	地域の夏祭り参加、町内の文化展出品準備や幼稚園の訪問受け入れなど地域との日常的交流に努めている。また、他事業所の実習生の受け入れ等で事業所の持つ機能を地域に還元する取り組みも実践している。	開設2年目で、地域との連携に努めているが、今後さらに交流を拡大していく計画をしているので、その実践に期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部からの見学は随時可能な体制となっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者とケアリーダーが運営推進会議にて、町職員、町内会代表者、家族会代表者に状況等を報告している。	運営推進会議はほぼ2ヶ月毎に開催し、利用状況や事業所の取り組み等報告すると共に具体的な意見交換が行われている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外でも必要に応じ連絡等を行っている。	日頃から町担当者と連携を取りながら情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上夜間は施錠しているが、日中は戸が開いた時に音が鳴るようにし、施錠は行っていない。また、夜間は危険防止のため、事故の防止に努めている。	日中、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組み、身体拘束廃止や高齢者虐待防止について、職員間の共有が行われるよう努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の立場になり支援するよう努めているが、虐待防止法を学ぶ機会が少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などが開催されたときに参加し、制度などの理解を深めたいと思うが、学ぶ機会が少ない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明に努め、理解を得られるよう努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族会代表者が参加できるようにしており、意見交換をしたり、玄関に意見箱を設置し意見を頂くなどしている。	本人や家族等が言い表せるように苦情等の申し出先の掲示や意見箱を設置し、その機会を設けている。また、家族会で意見や要望等話し合い、運営に反映するよう努めている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、意見などの話し合いをしている。	毎月の職員会議等で職員の意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映するよう努めている。また、職員の資格取得を奨励し、スキルアップの機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望研修参加の機会を設け意欲を尊重し、勤務等の希望を聞き、体制整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加促進や、資格試験の受講機会を確保している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業主ではあるが、隣接の有料老人ホームの行事に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面接を行い、意見・要望などを聞くようにし、入所後もその都度対応している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面接で、不安・要望などの話を聞くようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接時に希望するサービス等の確認を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	住む場所が違って一緒に暮らしている家族として、状況に応じた対応を心掛けている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の置かれた状況にも配慮し、話を聞いたり、面会時に状況を伝えている。 又、月1回事業所だよりを家族に送付している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な面会の方だけではなく、突然来られる面会者にもその場を提供し、触れ合えるよう努めている。	散歩や買い物、町内の夏祭り参加等で馴染みの場所への訪問や友人・知人との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重し、一緒にいられる時間を取れるようにしたり、生活リズムを尊重するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中のお見舞い、家族への連絡などで関係が途切れないよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り利用者との会話ができるようにし、利用者の意見や希望を聞き取るよう努めている。	本人の生活歴や趣味、嗜好等を把握し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接の際、生活歴の聞き取りを行い、入所後は家族、関係者から情報を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活状況、表情を観察し、生活リズムの把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時にケアカンファレンスを行い、意見、アイデアを反映し、現状に即した計画を作成している。	本人、家族の意見や思い、医師や看護師のアドバイスなどを介護計画に反映するよう努めている。また、モニタリングを通じて職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間では情報をその都度伝え、共有しながら支援し、その日の状況などを介護記録・申し送りノートで情報を共有しているが、細かく記録されていないことがある。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に合わせ、その時可能な対応を行うよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園、舞踊会などの訪問を受け入れ、隣接の有料老人ホームで楽しい時間を持てるよう努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけの医療機関の受診を継続したり、施設の協力医の往診などの支援を行っている。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっていて、往診や定期受診の通院支援等で適切な医療を受けられるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置されていないが、体調急変時等は、隣接の有料老人ホームの看護職員から助言を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時、入退院時には、御家族・職員・病院関係者との情報交換等に努め、関係づくりを図っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時・入居時に十分に説明を行い、状態変化に応じ御家族・医療機関等と連携し、必要に応じた支援ができるよう取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人・家族と話し合い、事業所ができること十分に説明している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行われていないが、緊急時の連絡体制、マニュアルは作成している。又、機会があれば外部研修等に参加したい。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー等の火災通報装置が完備されており、年2回避難訓練の予定がある。	火災や地震等の災害時に備えて、消防署からの避難経路、避難場所等の助言を得ている。また、スプリンクラー、火災報知器、通報装置の設備が整っている。	ヒヤリ・ハットと事故報告書の記入方法やその改善策について、職員会議等で検討しているので、その実践に期待します。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシーや言葉かけに配慮できるよう努めている。	誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように、日々の業務や職員会議を通じて、職員間で話し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう努めているが、状況により対応できていないことがある。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突然の希望の場合対応できていないことがあるが、時間をずらしたりして希望に添えるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は2カ月に1回出張美容師に依頼し、身だしなみの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好み、食べ方に配慮し、なるべく職員と一緒に食事するようにしている。簡単な下ごしらえ・調理、片付けなどは、職員と入居者が一緒に行っている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に調理の準備や盛り付け、味付けや食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を把握し、適切な摂取量となるよう支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時及び必要に応じ口腔ケアを促し、異常があれば歯科受診などの対応をしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情・素振りなどに注意して時間を見計らいトイレ誘導などを行っている。	一人ひとりの力や排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	経過観察表を記録し、排便状況を共有して、乳製品・繊維食品などを摂取するよう心掛けたり、運動を行うなどで予防に努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前のバイタルチェックで体調を確認し、1日3人の入浴で時間にゆとりを持って入浴できるよう配慮しているが、計画作成の都合上入浴日は決めている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回を目安に支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの状況に応じた対応に努めている。又、冬期間は温度・湿度にも気をつけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別薬剤情報写真付きファイルを用意し、変更があった時には申し送りなどで情報を共有している。服薬時は、服薬を確認し症状等の変化の把握に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのできること、やりたいこと等、能力を生かして生活できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>外出は職員・管理者が同行している。野外の行事には体調を見て、全員参加ができるよう支援している。好天時は畑仕事、ボール遊びなどの屋外でのレクも行っている。</p>	<p>本人のその日の希望に沿って、日用品の買い物や畑作業、幼稚園の運動会見物や夏祭り参加等戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、屋外でのレクの実施やパン屋さんの訪問販売の利用など金銭を使うことができる支援もしている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>御家族了解のもと、個人管理が可能であれば本人が管理し、2週間に1回の訪問販売時は自分で買物ができるよう支援し、その他の日用品などの買物は車での外出援助を行っている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は希望時に対応している。又、郵送ではなく面会に来られた時に手渡しできるよう支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>音や温度に配慮し、飾りなどは入居者が作成したものを貼るなどし、季節に応じたものになるよう配慮している。</p>	<p>リビングには、ソファやテーブルが配置され、一人になったり、談笑できるスペースが確保されていて、笑い声が多く聞こえて、本人が居心地良く過ごせるよう支援している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間でも自分の場所があるよう配慮している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>御本人が使用していた馴染みの家具等を自由に持ちこんで頂き、居心地よく生活できるよう配慮している。</p>	<p>居室には、使い慣れた家具や寝具、仏壇や家族の写真等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内はバリアフリーになっており、必要箇所には手すりを設置し、転倒原因になるものは置かないよう配慮している。自室には名札を掛けている。</p>		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	行事以外での地域とのつながりの機会が少ない	行事を通じ、地域との交流やつながりを広げていく	地域の行事等への参加を継続し、交流を拡大していく。 入居者と作品制作をして、町内の文化展に出品などを検討中。	6か月
2	7	外部研修の機会が少ない	職員全員が研修等の参加機会をもてるようににする	外部研修参加が難しい場合は近隣の関係機関・施設などから資料を見つけ、内部研修で話し合い・検討をする。	12か月
3	27	排泄、食事・水分摂取量などの記録の記入漏れがある	排泄、食事・水分摂取等の記録は後回しにせず、支援を行った時に記録するようにする	支援を行った場合には記録を徹底し、排泄回数、食事・水分摂取量など誤りのないようにする	3か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。